

Oracle® Enterprise Repository

インポート/エクスポート ツール ガイド

10g リリース 3 (10.3)

2008 年 10 月

原著者 : Vimika Dinesh

原本協力者 : Jeff Schieli, Scott Spieker, Mike Wallace, Sharon Fay

このプログラム(ソフトウェアおよびドキュメントを含む)には、オラクル社およびその関連会社に所有権のある情報が含まれています。このプログラムの使用または開示は、オラクル社およびその関連会社との契約に記載された制約条件に従うものとします。著作権、特許権およびその他の知的財産権と工業所有権に関する法律により保護されています。独立して作成された他のソフトウェアとの互換性を得るために必要な場合、もしくは法律によって規定される場合を除き、このプログラムのリバース・エンジニアリング、逆アセンブル、逆コンパイル等は禁止されています。

このドキュメントの情報は、予告なしに変更される場合があります。オラクル社およびその関連会社は、このドキュメントに誤りが無いことの保証は致し兼ねます。これらのプログラムのライセンス契約で許諾されている場合を除き、プログラムを形式、手段(電子的または機械的)、目的に関係なく、複製または転用することはできません。

このプログラムが米国政府機関、もしくは米国政府機関に代わってこのプログラムをライセンスまたは使用する者に提供される場合は、次の注意が適用されます。

U.S. GOVERNMENT RIGHTS

Programs, software, databases, and related documentation and technical data delivered to U.S. Government customers are "commercial computer software" or "commercial technical data" pursuant to the applicable Federal Acquisition Regulation and agency-specific supplemental regulations. As such, use, duplication, disclosure, modification, and adaptation of the Programs, including documentation and technical data, shall be subject to the licensing restrictions set forth in the applicable Oracle license agreement, and, to the extent applicable, the additional rights set forth in FAR 52.227-19, Commercial Computer Software--Restricted Rights (June 1987 Oracle USA, Inc., 500 Oracle Parkway, Redwood City, CA 94065).

このプログラムは、核、航空産業、大量輸送、医療あるいはその他の危険が伴うアプリケーションへの用途を目的としておりません。このプログラムをかかるとして使用する際、上述のアプリケーションを安全に使用するために、適切な安全装置、バックアップ、冗長性(redundancy)、その他の対策を講じることは使用者の責任となります。万一かかるプログラムの使用に起因して損害が発生いたしましても、オラクル社およびその関連会社は一切責任を負いかねます。

Oracle, JD Edwards, PeopleSoft, Siebelは米国Oracle Corporation

およびその子会社、関連会社の登録商標です。その他の名称は、他社の商標の可能性があり得ます。

このプログラムは、第三者のWebサイトへリンクし、第三者のコンテンツ、製品、サービスへアクセスすることがあります。オラクル社およびその関連会社は第三者のWebサイトで提供されるコンテンツについては、一切の責任を負いかねます。当該コンテンツの利用は、お客様の責任となります。第三者の製品またはサービスを購入する場合は、第三者と直接の取引となります。オラクル社およびその関連会社は、第三者の製品およびサービスの品質、契約の履行(製品またはサービスの提供、保証義務を含む)に関しては責任を負いかねます。また、第三者との取引により損失や損害が発生いたしましても、オラクル社およびその関連会社は一切の責任を負いかねます。

Oracle Enterprise Repository

インポート/エクスポート ツール ガイド

目次

- **概要**
- **ツールの起動**
 - Oracle Enterprise Repository からの起動
 - コマンド ラインからの起動
 - 最初の起動
- Oracle Enterprise Repository からの項目のエクスポート
- Oracle Enterprise Repository への項目のインポート

概要

Oracle Enterprise Repository Import/Export ツールは、Oracle Enterprise Repository のインスタンス間でアセットおよび関連するメタデータをやり取りできるように設計されています。

アーカイブは完全自立型である必要があります。つまり、エクスポートされるすべての項目を完全に記述するために必要な依存データもすべてエクスポートされます。次のような依存関係があります。

- アセット、準拠テンプレート、およびポリシーは種類に依存する
- アセットの種類、準拠テンプレートの種類、およびポリシーの種類はカテゴリの種類と関係の種類に依存する

たとえば、1つのアセットをエクスポートすると、その結果としてアーカイブには、そのアセット、関連するアセットの種類、およびそのアセットの種類が依存するすべてのカテゴリの種類と関係の種類が含まれます。インポートの場合は、アーカイブに含まれるすべてのデータがインポート先の Oracle Enterprise Repository インスタンスにインポートされます。同じ名前の項目が存在する場合に発生する衝突は、次のように解決されます。

- アセット、準拠テンプレート、ポリシー、およびそれぞれの種類の名前は、システム内でユニークである必要があります。インポート先の Oracle Enterprise Repository インスタンスにすでに存在する項目と同じ名前の項目がインポートされると、新しい (インポートされた) 項目の名前に「v2」が追加されます。同じ衝突が発生するたびに、「v3」、「v4」のように項目の新しいバージョンが生成されます。インポートされる項目の名前に「Vn」という指定がすでに付加されている場合は、その名前にさらに「v2」が追加されます。
- インポート先に同じ名前のカテゴリの種類が存在する場合、カテゴリの種類のデータがマージされます。インポート元のアーカイブのカテゴリがインポート先のシステムに存在しない場合は、既存の (インポート先の) カテゴリの種類に追加されません。
- インポート元とインポート先の関係の種類の名前と種類が同じ場合は無視されます。インポート先のシステムの既存の説明テキストは保持されます。インポート元とインポート先の関係の種類の名前が同じで種類は異なる場合は、前述のように、インポート先のシステムにインポートするときに、インポート元の関係の種類の名前に「v2」が追加されます。

注意 : Oracle Enterprise Repository インスタンスを Siteminder で保護するようにコンフィグレーションされている、または今後そのようにコンフィグレーションする場合、Import/Export ツールが正しく機能するには、次の URL を無視する (つまり、保護しない) ようにポリシー サーバをコンフィグレーションする必要があります

- <http://appserver.example.com/oer/services/>

ツールの起動

Import/Export ツールは、スタンドアロン クライアントとして実行できます。または、Oracle Enterprise Repository 内の [Admin] 画面から起動できます。Import/Export ツールには JDK 1.4.2 以降が必要です。

Oracle Enterprise Repository からの起動

[Admin] タブからの起動を有効にするには、新しいプロパティをコンフィグレーションおよび追加して、[True] に設定する必要があります。

- `cmee.importexport.enabled`

これで、Oracle Enterprise Repository の Import/Export セクションが有効になります。Import/Export ツールの特性と、総合バックアップに必要なデータの量により、ツールの使用は、組み込み管理ユーザなど、[Admin] ロールが割り当てられたユーザに限定されています。Import/Export ツールを起動するリンクは、[Admin] ロールを持つユーザに対してのみ表示されます。

- **注意 :**
 - Import/Export は REX を利用する完全自立型のツールであるため、Oracle Enterprise Repository から起動した後でもう一度ログインする必要があります。

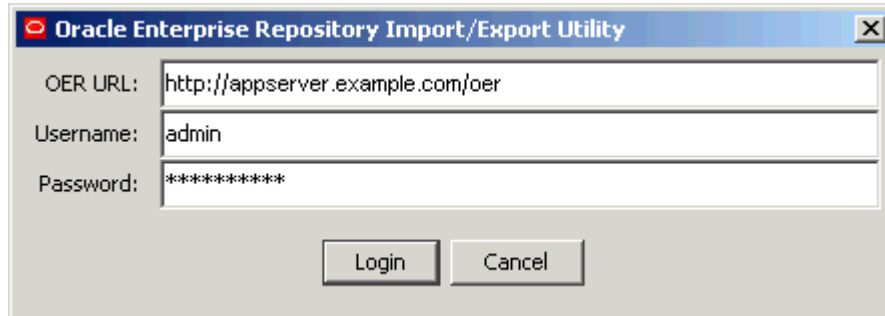
コマンド ラインからの起動

コマンド パスに JDK (1.4.2 以降) があること、および JAVA_HOME が設定されていることを確認します。インストール メディアから `impexp/` ディレクトリをコピーし、次のコマンドを実行します。

- **Win32 プラットフォーム**
 - `impexp.bat`
- **Unix/Linux プラットフォーム**
 - `sh ./impexp.sh`

最初の起動

Import/Export ツールを起動すると、Oracle Enterprise Repository の接続情報を入力するように求められます。



- [OER URL]
 - Oracle Enterprise Repository インストールへのパス。通常は、システム設定に定義されているサーブレットのパスと同じです。たとえば、`http://appserver.example.com/oer/` です。
- [Username]
 - Oracle Enterprise Repository 内で [Admin] ロールを与えられたユーザの名前。
- [Password]
 - 上で指定したユーザのパスワード。

Import/Export ツールがジョブ モニタによって自動的に強制終了されるまでの最大実行時間をミリ秒で設定するには、新しいシステム設定をコンフィグレーションする必要があります。

- `cmee.extframework.impexp.monitor.maxruntime`

Oracle Enterprise Repository からの項目のエクスポート

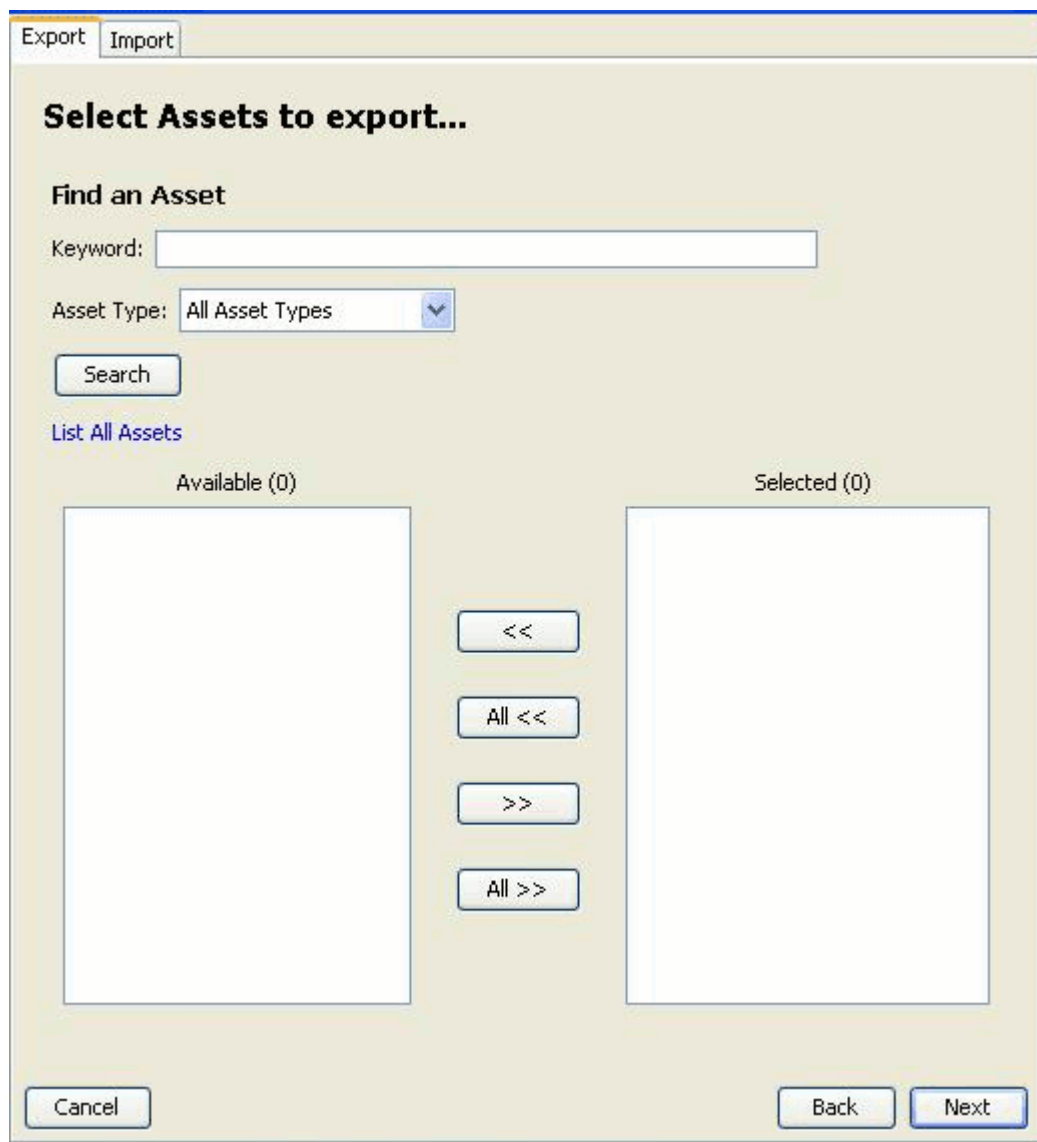
この手順は Oracle Enterprise Repository の [Admin] 画面で行われます。

1. [Admin] サイドバーで [Import Export] をクリックします。
2. [Import / Export Client] をクリックします。
[Import / Export Client] が起動します。
3. [Export] タブをクリックします。

The screenshot shows a dialog box titled "Select target and entity types to export...". It has two tabs: "Export" and "Import". Under "Select Target File", there is a text box and a "Browse" button. Under "Select Entities to Export", there are four checkboxes: "Assets", "Asset Types", "Categorization Types", and "Relationship Types". A "TIPS:" section contains the following text: "Select a file name to save the export to." and "Select the Oracle Enterprise Repository entities you would like to include within the export.". At the bottom, there are "Cancel", "Back", and "Next" buttons.

4. [Select Target File] テキスト ボックスに適切なファイル名を入力するか、[Browse] をクリックしてエクスポートするターゲット ファイルを選択します。
5. [Select Entities to Export] チェック ボックスを使用して、エクスポートするエンティティを指定します。この選択内容によって、これ以降の手順でのエクスポート クライアントの具体的な動作が決まります。
6. [Next] をクリックします。

手順 5 の選択内容に応じた [Select] ポップアップが表示されます。

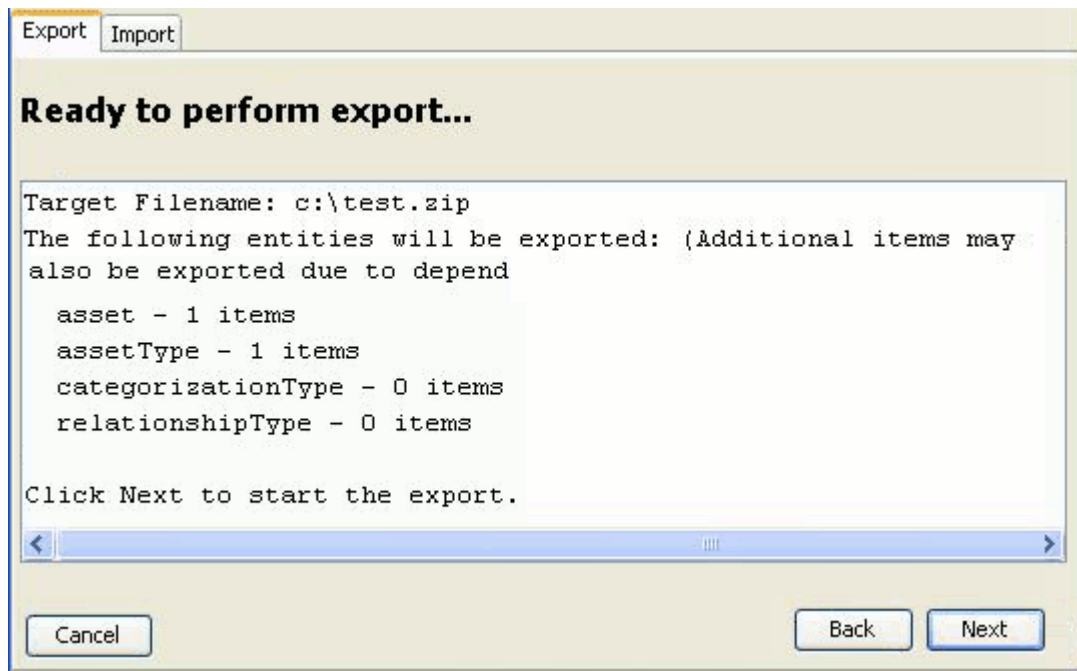


7. [Search] を使用するか、[List all] をクリックして [Available] カラムに項目のリストを表示します。
8. [<<] ボタンと [>>] ボタンを使用して、[Available] カラムと [Selected] カラムの間で選択項目を移動します。
9. [Next] をクリックします。

手順 5 ([Select Entities to Export]) で複数の項目を選択した場合は、次の [Select] ポップアップで手順 7 と手順 8 を繰り返して、エクスポートする次の項目グループを選択します。

10. [Next] をクリックします。

[Ready to perform export] ポップアップに、エクスポートするファイルのリストが表示されます。

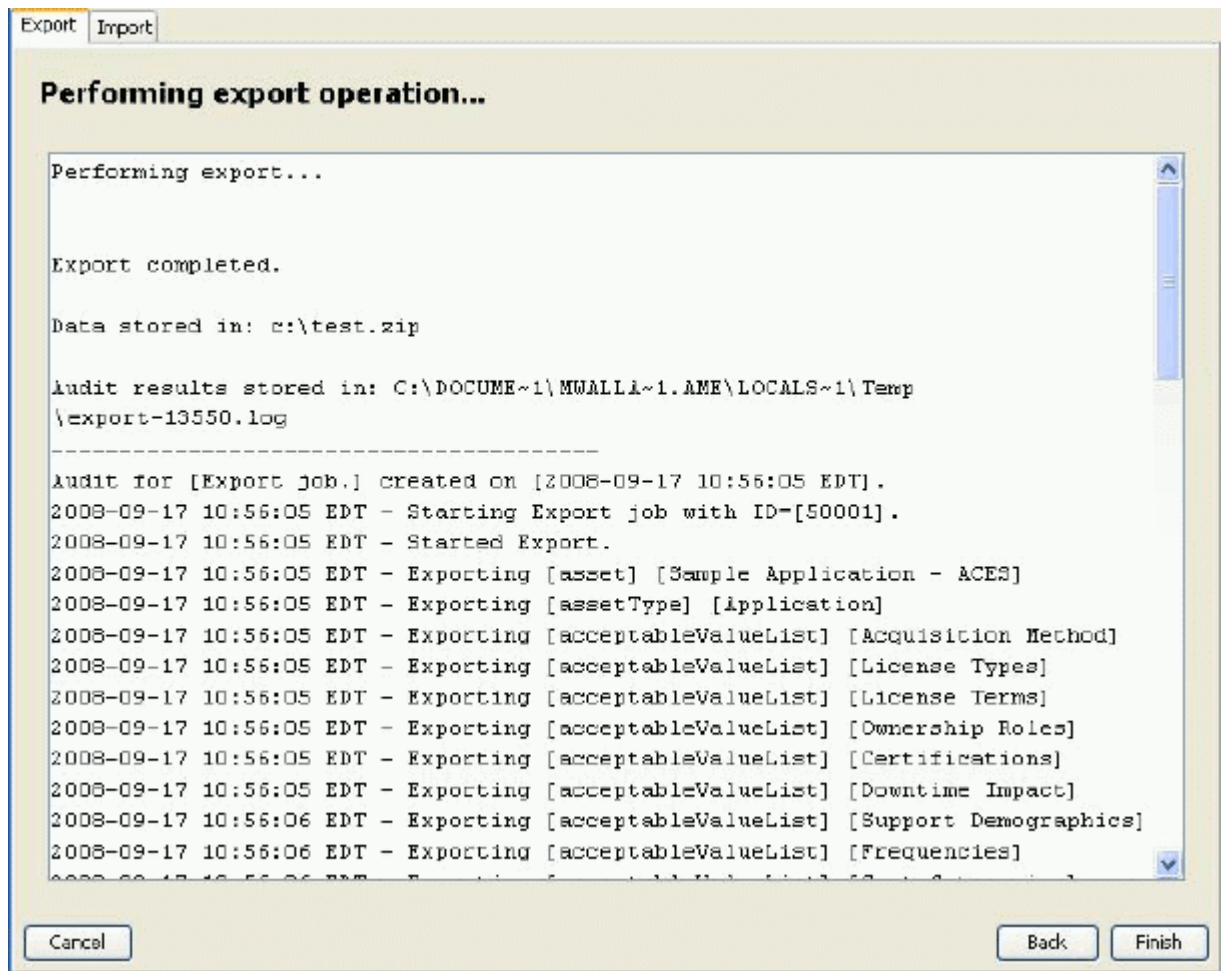


11. [Next] をクリックします。

進行状況バーにエクスポート処理の状態が示されます。

注意： エクスポートする項目のサイズや複雑さの違いが、この処理の速度および進行状況バーの動作に影響します。

完了すると、エクスポートの要約が表示されます。

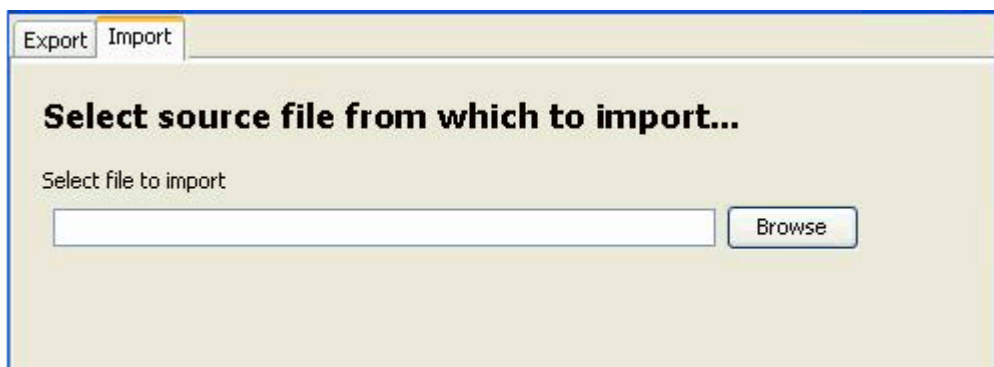


Microsoft Windows プラットフォームでは、Windows エクスプローラで、アーカイブが保存されたフォルダが開きます (システム パーミッションでアプリケーションからシェルを実行できることが前提です)。

Oracle Enterprise Repository への項目のインポート

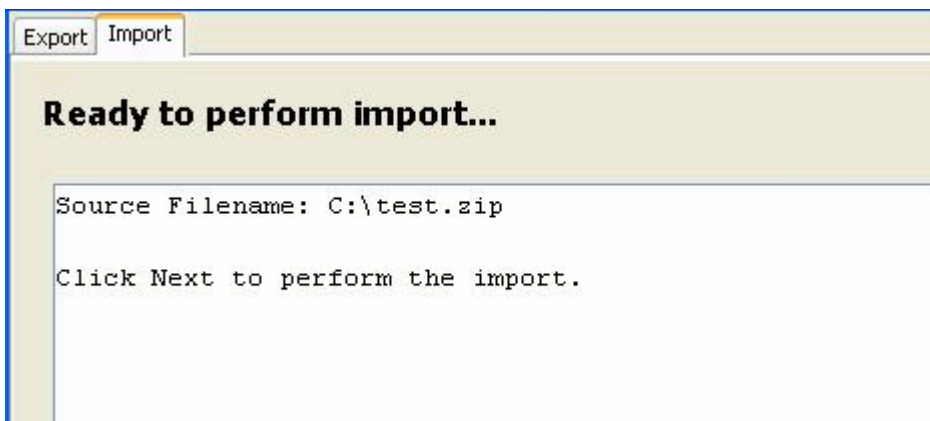
この手順は Oracle Enterprise Repository の [Admin] 画面で行われます。

1. [Admin] サイドバーで [Import Export] をクリックします。
2. [Import / Export Client] をクリックします。
[Import / Export Client] が起動します。
3. [Import] タブをクリックします。
4. [Select file to import] テキスト ボックスに適切なファイル名を入力するか、[Browse] をクリックしてインポートするソース ファイルを選択します。



5. [Next] をクリックします。

[Ready to perform import] ポップアップに、選択したソース ファイルのリストが表示されます。



6. [Next] をクリックします。

進行状況バーにインポート処理の状態が示されます。インポートする項目のサイズや複雑さの違いが、この処理の速度および進行状況バーの動作に影響します。

完了すると、インポートの要約が表示されます。

```
Export Import
Performing import operation...

Performing import...

Import completed.

Audit results stored in:

C:\DOCUME~1\MWALLA~1\AME\LOCALS~1\Temp\import-13552.log

-----
Audit for [Import job.] created on [2008-09-17 10:59:21 EDT].
2008-09-17 10:59:21 EDT - Adding Import job with ID=[50002] to job queue.
2008-09-17 10:59:22 EDT - Started Import
2008-09-17 10:59:22 EDT - Found relationshipType named dependency
2008-09-17 10:59:22 EDT - Found relationshipType named Deployment
2008-09-17 10:59:22 EDT - Found relationshipType named Functional-Equivalent
2008-09-17 10:59:22 EDT - Found relationshipType named Artifact-References
2008-09-17 10:59:22 EDT - Found relationshipType named AssetsUsed
```

注意：サイズの大きいデータ セットをインポートすると、Import/Export ツールの実行時に、使用可能なメモリの問題が発生することがあります。この問題が発生しないようにするには、**impexp.jnlp** ファイルをローカルで保存します。そのためには、Import/Export クライアントのリンクを右クリックして、コンテキスト メニューの [Save link as...] オプションを選択します。インポートされるデータ セットのサイズに合わせてデフォルトの **max-heap-size** を増やすように **impexp.jnlp** ファイルを編集します。データ セットをインポートするマシンに使用可能なメモリが十分にある場合は、次のように **max-heap-size** パラメータを高い値に変更します。たとえば、`<j2se version="1.6" max-heap-size="1024m"/>` とします。